

令和 5 年度

自己点検評価

富士インターナショナルアカデミー

実施日 令和 5 年 3 月 6 日

本学は教員の一層の充実を図り、本学の目的及び社会的使命を達成する為に、
本学における教育活動について自ら点検及び評価を行うものとする。

1. 日本語教育機関名 富士インターナショナルアカデミー
2. 評価責任者 校長 高多 理吉
3. 公開責任者 設置者 新町 聖子
4. 自己点検実施対象者 設置者、経営担当業務執行役員、校長、
主任、専任、事務員
5. 自己点検評価項目別評価担当者
 1. 教育理念、目標 (設置者)
 2. 学校運営 (校長)
 3. 教育活動 (主任)
 4. 学習成果 (主任)
 5. 生徒支援 (事務長)
 6. 教育環境 (校長)
 7. 募集と選考 (事務長)
 8. 財務 (経営担当業務執行役員)
 9. 法令 (校長)
 10. 地域・貢献 (校長)

6. 評価項目について

A：達成されている、適合している

B：一部未達成であるが、不十分なところがあり改善に取り組む

C：未達成、適合しない

Aを選んだ場合は今後も維持、向上する為に何をするか記入

B、Cを選んだ場合は改善計画について記入

7. 点検実施期間

毎年、卒業式終了後、3月末までに点検を実施する。

8. 実施要領

卒業式終了後、校長は自己点検評価の実施について説明し

評価表を配布する。

点検表提出期限までに評価責任者へ提出する。

点検表を評価担当者へ渡し、各評価担当者は報告書を作成し、

それぞれの達成状況について根拠を示して記述する。

見えてきた課題を具体的に示し、改善計画を記述する。

評価責任者は最終の点検を行い、完成した報告書を

公開責任者によってホームページ上で公開する。

9. 自己点検評価表の項目

自己点検を公開した後、自己点検評価表についてより改善していくために点検内容についても協議し、教育活動に一層の充実を図る。

10.点検 評価項目内容

1. 理念・教育目標（別紙記載）

理念、教育目標、教育方針に基づいて学校運営がなされているか

2. 学校の運営

運営の透明性、積極的な情報開示ができているか

告示基準を順守しているか

3. 教育活動

教育理念、教育目標に基づいたコースが設定されているか

教育目標に達成出来る様カリキュラムが編成されているか

教育目標に合致した教材の選定ができているか

教員の適切な配置ができているか

4. 学習成果

入学から卒業までの学習成績の記録、保管が適切におこなわれているか

終了・卒業の判定は適切か

外部試験の結果を把握しているか

学生の進路を把握しているか

5. 学生支援

アルバイト、健康管理、進路指導、入管法上の指導、支援

緊急事態時の対応への支援体制の整備ができているか

6. 教育環境

施設、設備が教育環境に望ましい状態であるか

学習効率をあげるための環境整備が整っているか

7. 入学者の募集と選考

正確な情報提供による募集活動ができているか

理念・教育目標にあった学生の募集ができているか

8. 財務

学校運営、教育活動が安定的に行えているか

予算、収支は有効的妥当であるか

適切な会計監査がおこなわれているか

9. 法令遵守

法令遵守に関する担当者を定めているか

個人情報保護の為の対策をおこなっているか

出入国在留管理局、その他関係官公庁への届け出、報告を

遅延なくおこなっているか

10. 地域貢献・社会貢献

日本語教育機関の資源、施設を利用した社会貢献、地域貢献が

行われているか

地域活動への協力、参加ができているか

公開講座をおこなっているか

教育理念と教育方針

学・誠・思・創

- 学** 目標である大学・専門学校等に進学する為に日本語を学び、日常のコミュニケーションがスムーズに取れるようにする。
- 日本文化を学び、地域交流を活発に行うことを可能とする。
- 日本文化に触れ、地域交流を通して異なった価値観、マナー、生活習慣、言葉、積極性を身につける。
- 社会ルールを学ぶ。
- 入国後日本での生活はすぐにスタートする為、早い段階で指導を行い、社会に適応出来る様に、日々、指導を行う。
- 教職員も共に学ぶ
- 指導を通し、互いの文化を学び合う事で相互理解を深める。
- 誠** 教職員と学生は誠実に向き合う。
- お互いに誠実に向き合い、尊敬、尊重し合う事により信頼関係を築くことがより良い教育に通じることを心に強く刻ませる。
- 思** 人生をよく考え、目標を持つ。
- 慣れない異国での留学生活に苦悩する事があるだろうが、日本へ留学する目標を確かなものにし、家族への思いを忘れずに初心に帰り勉強に励む。
- 教職員は学生の目標を把握する。
- 教職員は学生の目標を適切に把握することによって、学生の能力を見極め、目標へ向かって適切に教育、指導を行う。
- 創** 国際社会に貢献できる創造的な人材の育成。
- 教育、指導を通し、言葉の能力を上げ・自律性を高め、広い視野・社会ルール・誠実性・信頼性の養育に努める。
- わが国のみならず、広く世界での出来事にも目を向けさせ、人間社会の現実を見る目を備える事で、国際社会に貢献できる人材を育成する。
- 学生の目標を達成する為に教育内容の改善を怠らず、常に成長し、創造的な学校教育創りをする。
- 学生が安心して勉強出来るより良い環境を整備する事で、成長する創造的な学校をめざす。

1 理念・教育目標

1	理念・教育目標・教育方針に基づいた学校運営ができている。	A
2	内容が社会のニーズに合致した内容になっている。	A

当校の教育理念に基づき、指導、対応、支援活動を日々、行っている。
 理念・教育方針に基づき、教職員一同となり、安定した学校運営を営むため、それぞれが日々研鑽している。
 学生が、進学した先で必要なスキルや日本での生活ルールを身につけるために、常に追求し教職員のスキルアップを図り、学生、教職員に成果が見られる。
 一步一步前進し、次年度も研鑽を積み結果を残せるよう教職員一同励む。

2 学校運営

1	日本語教育機関の告示基準に適合している。	A
2	運営方針と経営目標が明確である。	A
3	学生に対して理解できる言語で対応している。	A
4	教育目標達成に必要な教員の知識、能力が明示されている。	A
5	職員の人事管理を適切に行っている。	A
6	学生の入学、卒業の許可、退学、休学の許可を適切に行っている。	A
7	外部からの情報収集を効率的に行い、共有化している。	A
8	授業、運営に関する学生からの相談、苦情を適切に対処している。	A
9	業務の見直し及び効率的な運営の検討が定期的、かつ組織的に行っている。	A
10	管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がされている。	A
11	教員及び職員の研修等による教育の質強化のための取り組みをしている。	A
12	教育機関として信頼を高めるため、倫理的、振舞い、ハラスメント防止に関する研修を行っている。	A
13	教員及び職員の評価を適切に行っている。	A
14	教員及び職員の採用方法及び雇用条件が明文化されている。	A
15	財務管理に関する規定が明文化されている。	A

学校運営について、問題なく日本語教育機関の告示基準に適合している。
 日々状況を把握するためにも外部からの情報収集を行い、共有し職員の人事管理、学生からの苦情などそれぞれ担当者を決め、迅速に対応を行っている。
 学生数が増加しているため当校の採用基準で採用した職員に、研修を行いそれぞれの能力に合わせて配置を行い適切に評価をしている。
 毎週、定例のミーティングを行い、情報を共有し、学生の状況を把握し必要な許可を適切に行い管理規定や改善点について整備を行い、情報の共有に漏れがないようにしている。
 募集状況や学生の進学状況、財務状況の確認を定期的に行い、運営が円滑にできている。

3 教育活動

1	学校の運営体制が告示基準に合致している	A
2	教育理念・教育方針に基づいたコースが設定されている。	A
3	学生に適した教材の選定、開発が適切に行われている。	A
4	教員の指導力、経験に応じて適切な教員の配置がなされている。	A
5	教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している。	A
6	教育内容、教育方法について教員間で共通の理解を得られている。	A
7	大学、専門学校、他の日本語教育機関の情報収集や教員との意見交換等定期的に行っている。	A
8	出席、成績の管理を適切に行っている。	A
9	授業開始までに試験などで、適切なクラス判定を行っている。	A
10	授業に必要な学習リソース及び情報が提供されている。	A
11	教育課程の改善の為の取り組みが行われている。	A
12	教員の指導力向上のための取り組みが実施されている。	A

4 学習成果

1	修了、卒業判定は適切である	A
2	入学から卒業までの学習成績の記録、保管が適切に行われている。	A
3	日本留学試験、日本語能力試験などの外部試験の結果を把握している。	A
4	卒業後の進学先を把握している。	A
5	卒業生の進学先の情報を記録し、教員間で情報を共有している。	A
6	修了、成績、進級の評価判定は適切である。	A

7	授業評価を定期的実施している。	A
8	評価体制、評価方法及び評価基準が適切である。	A
9	生徒による授業評価を定期的実施している。	A
10	評価結果が、教育内容や方法の改善、教員の教育能力の向上等の取り組みに反映されている。	A
11	理解度、到達度の確認が実施期間中に適切に行われている。	A
12	判定基準及び判定方法が明確に定められ開示されている。	A
13	成績判定結果を的確に生徒に伝えている。	A
14	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。	A
15	進級及び卒業判定が定期的に行われている。	A
16	教員に対して、担当するクラスの生徒の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している	A

教務内で自己点検評価を行った。学校の理念に沿ったカリキュラムに基づき各教師が目標を定め、主任主導のもとに熱心に教育にあたっている。
 教師の指導力向上のため教務内では定期的に勉強会や研修会を実施している。今学期は進路指導を中心に学生と面談が行われ、進路指導担当から教師間で密な情報交換の場を設けて、真摯に学生面談に取り組む所存である。
 そのほか、校内ガイダンスや郊外ガイダンスも実施予定であり、学生の上級学校への進学意識を高めていきたい。
 また、出席・成績(外部試験を含む)書類、データの保存もしっかりやっていく。

5 学生支援

1	学生の学習支援計画を策定し、支援体制を整備している。	A
2	学習態度に問題がある学生には、すぐ個人面談を行い原因を突き止め、問題の解決を図っている。	A
3	進路指導担当者を特定している。	A
4	学生の希望する進路を把握している。	A
5	大学、専門学校の進路に関する資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。	B
6	入学時から一貫した進路指導を行っている。	A
7	修了後、帰国する学生の帰国指導も行っている。	A
8	進路指導記録の管理を適切に行っている。	A
9	校内での進路説明会を行っている。	A
10	火事、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所を定めている。	A
11	防災についてオリエンテーション、若しくは防災センター見学を交えて学生の意識を高めると共に、避難訓練の実施も定期的に行っている。	A
12	防災用具が設備されている。	A
13	定期的に健康診断を実施している。	A
14	留学生活に関するオリエンテーションを定期的に行っている。	A
15	ごみ分別や交通安全といった指導を入国して早い段階で行っている。	A
16	アルバイトに関する指導、支援を行っている。	A
17	健康、衛生面について指導する体制を整えている。	A
18	対象の学生全員が国民健康保険、学校指定の留学生保険に加入出来ている。	A
19	重篤な病気、怪我があった場合の対応、感染症発生時の措置を決めている。	A
20	交通事故の相談体制、保険会社、警察、病院と連携がすぐ取れるようにしている。	A
21	防災についてオリエンテーション若しくは防災センター見学を交えて学生の意識を高めている。	A
22	住居に関するトラブルについて、学生に理解できるようにオリエンテーションで母語話者を通して説明している。	A
23	入学時、進学を目指す学生に収支計画を立てさせている。	A
24	申請取次者を配置している。	A
25	入管法上の留意点について学生に伝達、指導を行っている。	A
26	在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。	A
27	不法残留、資格外活動違反、犯罪を発生させないための指導、取組を継続的に 行っている。	A
28	学生の旅券有効期限、在留資格、在留期限、資格外活動の有無、アルバイト状況、出席状況が一括で管理できるようになっている。	A

7 入学者の募集と選考

1	入学選考基準方法が明確である。	A
2	現地訪問後も学生の意欲確認の為に、オンライン面接を幾度となく行い学生の意欲確認と適正性を確認している。	A
3	学費の説明が適切になされている。	A
4	学費返還についても説明を適切に行っており、募集要項にも公開されている。	A
5	募集要項、ホームページは学生が分かるようにそれぞれの国の母語で理解できるようにになっている。	A
6	仲介会社から送られてくる書類を確認し内容が正確であるか確認し仲介会社の適正性を確認すると共に、指導に応じない場合はその仲介会社からの募集は行っていない。	A
7	入学志望者の身分、学歴、経歴、経費支弁の事項及び志願者本人から提出された資料の原本、写し、現地での調査、面接資料について適切に保管されている。	A
8	入学志望者の身分、学歴、経歴、経費支弁の事項及び志願者本人から提出された資料の原本、写しの内容を正確に把握している。	A

学生支援について学生数が増加している中で、各々が連携し動いているため特段問題はないが、今後の課題として、アルバイトや出席状況の管理をよりスムーズに行っていく必要がある。入学者の募集と選考について、それぞれの国の担当者が、何をやるべきかしっかりと把握し、現地の状況をきちんと把握できているため、特段問題はない。課題を挙げるとすれば、入学希望者に対して、選考基準をより分かりやすく説明しなければならない。昨年、課題となっていた健康診断についても、全員が受診を終えており、今年度の計画も準備できている。

8 財務

1	債務超過になっていない	A
2	第3者による適切な会計監査を行っている。	A
3	財務状況は中長期的に安定している。	A
4	予算・収支計画は有効性及び妥当性が保たれている。	A
5	予算編成が適切になされ、かつ効率的に機能している。	A
6	財務情報の公開の体制は出来ている。	A

財務について、債務超過になっていない。毎月の会計監査も行っており、財務の状況は収支計画の予定通り安定している。予算の中で、適切に処理され問題ない。財務の公開体制は出来ている。

6 教育環境

1	施設、設備が安全かつ十分に整備が行われている。	A
2	学習効果を図る為の環境整備が整っている。	A
3	廊下、階段等は緊急時危険のない形状である。	A
4	教室の換気、適度な照度があり、遮音性も保たれている。	A
5	授業時間外に自習できる部屋が確保されている。	B
6	教育内容及び生徒数に応じた図書、メディアが整備され常時利用可能である。	A
7	教員及び教員の執務に必要なスペースが確保されている。	A
8	施設、設備に問題が発生した場合、適切かつ迅速に対応している。	A
9	校地、校舎面積は「日本語教育機関の告示基準」に適合している。	A

9 法令遵守

1	法令遵守に関する担当者を定めている。	A
2	個人情報保護の為の対策を行っている。	A
3	出入国管理局、その他関係官公庁への届け出、報告を遅延なく行っている。	A
4	自己点検評価の実施と改善及び公開を適切に行っている。	A
5	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取り組みを行っている。	A

10 地域貢献・社会貢献

1	日本語教育機関の資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献が行われている。	B
2	地域活動への協力、参加及び公開講座を行っている。	A

3	生徒のボランティア活動を推奨、支援している。	A
4	地域の伝統行事に積極的に参加している。	B
5	域内の地方公共団体や国際交流団体、自治会と連携、協力体制を構築している。	A

教育環境について、日々施設・設備の点検を行い危険がないよう整備がされている。
 教室についても、快適に学習できるよう整備が行われている。
 自習スペース、図書室の利用が上手に活用されていない。希望者がもっと利用できるよう声かけを行う。
 教職員の執務スペースも十分な広さを確保しており、敷地、建物について告示基準に適合している。
 法令順守について、担当者を決め、それぞれが個人情報に注意を払い取り扱っている。
 出入国管理局や関係官公庁への届け出は行っている。
 教職員のコンプライアンスを高めていく研修について、回数を増やして意識を高めていきたい。
 地域貢献・社会貢献について、当校の建物を利用し、外部講師を招いてのセミナー等行うことができたが、利用方法を模索しながら社会、地域貢献に繋げていきたい。
 地域の組合にも参加し、ボランティア活動の予定も出来、学生も多くの参加者が集まっている。
 もっと地域の方に学校や学生の理解を得て頂くためにも積極的に地域のイベントへの参加を促していく。